

# まちづくり懇談会記録

開催日時	令和2年2月6日(木) 午後2時00分～午後3時00分
場 所	上芦別多目的研修センター
出席者等	○市民参加者：男性8名 女性 3名 合計11名

## 会 議 の 概 要

### 1 開会 【総務部長 司会進行】

### 2 市長あいさつ

○荻原市長あいさつ

皆さんこんにちは。お寒い中、こうして出席いただきましてありがとうございます。一昨日から14日にかけて、市内11か所でまちづくり懇談会を開催していますが、今日はその3日目でございます。皆様には、日頃から市政やまちづくりに関しましてご支援・ご協力をいただいていることを厚くお礼を申し上げます。

さて、最近の状況であります。中国で発生しました新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大しており、国内においても懸念されているところです。加えて雪の少なさも挙げられます。今朝の北海道新聞におきましても報道されておりましたが、記録的な少雪が続いております。積雪量の記録的な少雪状態が続いているところでございます。降雪は8割ぐらいあるようですが、積雪が平年の半分以下となっています。気象台の発表では、3月まで気温が高い状況が続くということです。農家の皆さんにとって、越冬の作物、水稻栽培等、懸念されるところでございますが、推移を見守りながら必要な対策はしっかりとしていかなければならないと考えております。

また、JRの不通が続いていました芦別富良野間が昨日、野花南の架道橋の改修を終えました。当初は、2月末の改修を予定していましたが、開通したということで大変安堵しています。

そういう中におきまして、先ほど総務部長からご案内申し上げたとおり、市が直面する2つの課題がありまして、今後の取り進めについて、現状をお伝えして皆さんからご意見をいただいきたいと思っています。

詳細については担当からご説明申し上げますけれども、その一つは、市庁舎についてとなります。昭和44年に建設してから50年が経過しております。耐震性も劣る状況、老朽化と相まってという状況でありまして、震度6強で倒壊の恐れがあるという状況であり、将来にわたって市民の皆様が必要とされます行政サービス、防災の砦としても機能をしっかりとしていくということが、行政として求められているわけでありまして、したがって長期的な観点に立って、建て替えが最善であると考えておりますが、多大な事業経費を要することもございますので、国の支援もさることながら、市の財政面も十分念頭に入れて検討を加えて行かなければならないと思っています。

もう一つは市立病院の事ですが、人口の減少、さらには常勤医師の不在といったことから、厳しい経営環境下におかれているところでございます。昨年、厚労省から全国で424の病院、道内においては54の病院を再編・統合の対象とするという公表があり、芦別市もその一つとして対象となったわけでございます。これを受けて、市民の皆さんから、市立病院がなくなるのではないかと心配の声をお寄せいただいたところですが、市民の皆さんの命や健康を守るという使命を果たす唯一の公立病院でありますので、

なくすことがあつては、市民の安全・安心な暮らしに大きな影響を及ぼしかねませんので、そういった観点から、先月25日に有識者で構成します検討委員会から、昨年の2月から今年1月までの一年間かけ検討をいただいたあり方についての答申を受けました。内容については、後ほどご報告いたしますけれども市としても答申をしっかりと受け止め、市民の皆さんから安心をいただける医療の提供ができるようさらに検討を加え、市立病院の持てる医療資源、他の病院との連携も視野に入れながら、実情に見合った医療を提供できる病院として維持・存続させていこうと考えております。そのためには、市民の皆さんから市民の病院として支持をされ、支えていただく、そういった病院でなければならないと考えています。

これらのことなどについて、改めて皆様から忌憚のないご意見等をいただきながら、有意義な懇談の場となりますようお願いを申し上げ、開会にあたってのあいさついたします。今日はどうぞよろしく願いいたします。

### 3 説明事項【担当者より説明】（資料添付省略）

- (1) 芦別市総合庁舎建設基本構想（素案）について
- (2) 市立芦別病院のあり方検討委員会の答申について
- (3) その他
  - ・北森カレッジの本市での実習について
  - ・新型コロナウイルスの対策等について

### 4 意見交換

#### ○市民

病院問題について、厚労省からの再編・統合リストとして公表されたうち、中空知では芦別だけとありますが本当なのですか。というのは、前から市立病院は、業績が悪いと問題になっていましたが改善されていないということでもって、あり方検討委員会を組織したということですか。

#### ●病院事務課長

再編・統合リストは、平成29年6月の診療実績で判断されていて、中空知には5市5町あり、6つの公立病院があります。芦別のほか、赤平、滝川、砂川、歌志内、奈井江となっていて、このうち、歌志内と奈井江は、急性期をやっていないので対象から除外となり、残り4つの病院のうち芦別が該当になったということです。平成29年6月というのは、外科の先生がいなかったもので、そういった意味では赤平と比べると、赤平には外科医がいるので診療実績が劣っているとなります。すべて芦別だけが劣っているわけではなく、赤平にしても診療実績が劣っているところもあります。経営が悪いとかではなく、やっている医療行為が多いか少ないかということでの厚生労働省の区分けとなっています。

#### ○市民

市立病院がなくなるのではという話は前からありましたし、診療所になるのではということも言われていました。その中でこの内容が公表されたものですから心配になりましたが、市は病院がなくなることは絶対はないということで心配はないと思いますが、皆さんで努力して改善を図ってほしい。ほかの病院や赤平と比較しても劣らない病院にしてほしいと思います。

#### ○市民

病院について、NHKかなんかで放送されていて、カナディアンワールドの時もまちがなくなるというのを見たことがあります。テレビで放送されたことで、ひょっとしたらなくなるのかなと思いました。10年くらい前に3億くらい市立病院に繰り出していると聞

いていました。市の一般会計からは1億くらいだけれど、基金から2億、そのころから今回のようなことをやっていけば、違う意味で病院は改革されていたと思います。国はやるとなったらやりますから。市立病院がなくなるとしたら、あまり名前は出せないが砂川に救急車を1台寄附し、5千万ぐらい支出して診てもらおうとか、その場合は、用途変更して病院を老人ホーム等にすれば、収入も上がるのではないのでしょうか。また、市立病院を辞めた場合は、そこを庁舎にしてはどうなのかとも思う。費用面等分らないことで私見ではありますが、私の周りではなくてもいいという人が多く、プラスになるのであればいいですがそうならない状況では、病院は市だから持つという考えでなくていいと思います。

●病院事務課長

病院がなくてもいいという人が多いということでしたが、現在、市立芦別病院には70人が入院しています。仮に病院がなくなった時に70人がどこに行くのかという問題があります。市内の医療資源が減ってきて、砂川の市立病院も手が回らない状態で、外来はできるだけかかりつけ医に診てもらってくださいとしています。入院している方の多くが他市の方で占めているとなれば、砂川の市民にとって砂川の市立病院は何なのかということになってしまいます。そういった意味では、高齢者や交通手段を持たない方に治療を行う医療機関が必要だと考えています。それが市立病院なのか民間の病院がいいのかは議論になるかと思いますが、民間医療機関が新たに芦別に来ることは考えにくいとの問題があります。また、老人ホームに関しては、病院の中に作れないことはないのですが、老人ホームは医療機関でないので治療行為が全部できるわけではありません。簡単なことはできるのですが、医療機関ではありませんから大きな医療行為となると、近くに診られる医療機関がなければなりません。市立病院があつて近くに老人ホームがあるとか、慈恵園さんも嘱託医が週に一回行くというような形ですので、市立病院を老人ホームするというのは難しいと考えています。

●危機対策課長

庁舎整備について、市立病院を活用することも検討していますが、庁舎とするために改修等で建設するのと変わらない金額がかかってしまうため、新たに建設した方が良いという結論になっています。

○市民

他のまちに比べて、芦別の個人病院は多い方なのですか。

●病院事務課長

芦別にある医療機関は、市立病院と野口病院、中野記念病院、平和診療所、開業医の橋本先生となっています。このうち、ベットが20床以上ある病院は、市立病院と野口病院、中野記念病院で、救急車を受け入れる急性期は市立病院のみとなります。野口病院は、療養といわれる慢性期の方が入られる病院、また、半分は介護の施設という位置づけになっています。中野記念病院は精神科の病院で、一般的な内科の疾患などでは入れないことになっています。平和診療所は19床を持った診療所であり、橋本医院は、無床なので外来のみ受け入れとなっています。赤平に比べると若干多いのですが、滝川や砂川に比べると医療機関は少ないと認識しています。

○市民

先日、日曜日の当番医で市立病院を利用したのですが、迷惑そうな対応をされました。先生は威圧的ではありませんでしたが、看護師が迷惑そうな態度で言葉遣いも威圧的で、全国的な看護師不足の影響かと実感しました。悲しい気持ちになり、次回は当番医でも利用しづらいなという印象を持ってしまいます。意見としてくみ取ってほしいと思います。

●病院事務課長

分かりました。

○荻原市長あいさつ

最後まで熱心にお聴き取りいただきありがとうございました。市立病院につきまして、いろいろご懸念やご意見をいただきました。また、看護師のサービス、資質についても問われました。市立病院というのは、しっかりと市民の皆さんが安心して診療を受けていただく、そして、皆さんから支えていただくという体制にならなければいけないと思っています。その前提として、芦別市の一般会計と病院会計は一体で、支えるために税を投入していますので、これが過度になりますと共倒れということになります。そうならないためにも、一定のラインを引きながら対応を図ろうということで、答申等を踏まえながら、市として方針を示していきたいと思っています。方針については、3月市議会の市政執行方針の中で示すこととして、あらかじめ議員の皆さんにお伝えしていかなければなりません。基本的に私としては、市立病院は可能な医療資源の中で守っていく必要があると考えております。ご心配があった件については、議論を踏まえて納得いただけるように進めていきたいと思っております。

一つ申し上げさせていただきますと、この4月から芦別の10か年のまちづくり指針となる第6次総合計画がスタートいたします。芦別の人口も推計では、年400人ぐらい減少するという事です。今13,200人ぐらいですが、単純に年400人減少するとして10年で4,000人の減少、9,300人というのが人口問題研究所から出されました。この推移というのは、100パーセントそうではないと思いますが、否定もできないということで、数字を意識しながら、その数字を最大限として維持できるように努力しなければならないと思っています。

そういった意味において10か年に向けた総合計画のスタートとなるのが令和2年度になり、予算編成の最中であります。将来像は、芦別市民憲章に準じて「みんなで築く 豊かで住みよい 人と文化の輝くまち」と掲げており、この計画が一步でも前に進んでいけるような予算編成に努めて参ります。

これからも、皆さんと一緒に考え、市政に関してまちづくりに関して力を合わせて、まちを地域を元気にしていければと思っています。職員も一丸となって取り組んでまいりますので、引き続き皆さんのご支援とご協力をお願いしたいと思っています。

今日は、今年一番冷え込んだようではありますが、札幌管区气象台によりますと、これが10日までは続き、11日からは気温が上がるということです。気温に高低差があるので、体調管理には十分ご注意くださいまして、ご健勝でお過ごしすることをご祈念いたしまして、閉会に当たりましての挨拶とします。

5 閉会

以上